

アイ・シーたんなんだより 公立丹南病院



子どもを希望するなら
早く欲しいと行動しましょう

公立丹南病院 診療部長兼産婦人科 後藤健次



2014年の合計特殊出生率が1.42と9年ぶりに低下しました。出生率は2005年を底に2013年まで上昇傾向をたどっていましたが、2014年は1.42(2013年は1.43)と低下しました。2014年の出生数は過去最低の100万1000人で、2013年の出生数が102万9816人だったので、今年は100万人を割り込む公算が大きそうです。

出生率の低下は結婚・出産の年齢が上がっていることに密接に関連します。女性の平均初婚年齢は1995年には26.3歳だったのが、2014年には29.4歳まで上昇しました。また、第1子を産む平均年齢は1995年には27.5歳だったのが、2011年には30.1歳と大台に乗り、2014年には過去最高の30.6歳となりました。第1子の出産年齢が上がると、第2子以降の出産も減る傾向にあります。

晩婚、晩産化ニッポン、仕事の中心となる若者がいなくなり、持続的な経済成長が難しくなります。医療や年金などを支える現役世代の負担が増し、結婚や出産をためらう「負の循環」に陥る恐れがあります。

一方、おとなりの中国が「一人っ子政策」

を廃止しました。

「一人っ子政策」は、中国が1979年に導入した産児制限で、近代史の中でも最も異常な人権障害です。これを2015年10月29日に、「1組の夫婦が2人の子どもを産む政策を全面的に実施し、人口高齢化への対策を進める」というたった1行の文で廃止しました。二人までは産んでよいということです。

「一人っ子政策」が世界的にも例のない速度で少子高齢化を引き起こし、将来の労働力不足の解消が求められたのです。

子どもを産むのは男女・夫婦の自由な権利です。自分たちで、いつ結婚・妊娠・出産するか、あるいは何人産もうか、と考えるのは自由です。日本では、国が、若者に早く結婚して、早くたくさんの子どもを産みなさい、などとは言えません。国が、若者たちがそういった気持ちになるように社会を誘導しなければなりません。

しかし、晩婚が晩産をよぶ、あるいは、晩婚が不妊症、異常妊娠、異常出産や異常児をもたらす、というのは医学上の事実なので、このことは忘れないで欲しいと思います。

DMATの活動 大規模災害訓練について

公立丹南病院 DMAT 業務調整員 舘田 寛



2015年11月8日午前9時福井県でM7.6の地震発生。福井・坂井・あわら市、永平寺町で震度7、勝山・鯖江市で震度6、嶺南で震度5強を観測。建物崩壊等で大きな被害あり。約死者1500名、負傷者9000名、丹南地域は約死者7名、負傷者157名。県内全域で甚大な被害を受けた大地震の発生である。

といっても、これは大規模災害訓練で行われた当院の訓練シナリオです。

丹南地域の災害拠点病院である当院は、DMAT (Disaster Medical Assistance Team) と呼ばれる「災害急性期に活動できる機動性を持ったトレーニングを受けた医療チーム」が2隊います。メンバーは1隊につき医師1、看護師2、業務調整員1の計4名です。DMATは全国医療機関に多数おり被災地の災害時医療を支援し、東日本大震災でも多くのDMATが支援活動を行いました。



▲本部

9時、地震発生が全館放送され訓練が始まりました。約5分後、院内災害対策本部が設置され、院長が本部長に就きました。各部署の被災状況が続々と集まり、設備状況・部署状況等が判明していきました。約30分後、今後押し寄せてくる傷病者(役者は職員)受け入れのため、1階に赤・黄エリア、外に緑・トリアージエリアを設置しました。黒エリアは和みの里に設置しました。トリアージは優先順位づけ、緑は軽傷者、黄は治療が遅れても生命危機がない者、赤は救命処置が必要な者、黒は死亡又は蘇生の可能性が低い者です。

10時頃、傷病者が来られ各エリアが起動していきました。各エリア状況が本部にも伝達され、不足物品、不足医師・スタッフが補充されていきました。11時頃から支援DMATが随時来院され計6隊が参集しました。支援DMATには赤エリア内支援や傷病者の他院搬送を支援してもらい、赤エリアの傷病者7名中5名を市立敦賀病院へ搬送してもらいました。黄エリアでは入院、緑エリアでは薬処方後帰宅させる等の処置を行い、訓練は終了しました。

今回の病院訓練は中部ブロックDMAT訓練の一環として行われました。福井県でのブロック訓練は初であり県内全域で訓練が行われました。いつ起こるかわからない災害に対し日頃からの備えは非常に重要であり、今回の訓練を生かしつつ今後も訓練をしていき、災害時には迅速に活動できるようにしたいです。



▲赤エリアDMAT



▲トリアージポスト

たんなん文化祭を 開催しました

昨年10月17日気持ちのよい秋晴れの下、たんなん文化祭が開催されました。外来ホールには、部署紹介のポスターや患者様・職員の作品が飾られました。

1年目看護師とプリセプターによるハンドベルの演奏と、武生商業高校による吹奏楽演奏が行われました。今回はフラダンスもあり、色とりどりの衣装に陽気な音楽と踊りで、暖かい南の島の雰囲気も楽しむことができました。

患者様からも『楽しかった』『リフレッシュできた』とのお言葉をいただくことができましたので、大成功だったのではないかと考えております。

★行事委員会★



公立 丹南病院

〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31

公立 丹南病院

TEL:0778-51-2260 FAX:0778-52-8620
ホームページ: <http://www.jadecom.or.jp/jadecomhp/tannan/html/>
メールアドレス: tannan-info@jadecom.or.jp

公立丹南病院 在宅事業部

居宅介護支援事業所 〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31
TEL:0778-52-2050 FAX:0778-52-2151
訪問看護ステーション メールアドレス: tannan-zaitaku@jadecom.or.jp

**通所リハビリテーションセンター
なごみの里** 〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31
TEL:0778-51-5234 FAX:0778-51-8242
メールアドレス: tannan-nagomi@jadecom.or.jp

**通所介護
よつばの里** 〒916-8515 福井県鯖江市三六町1丁目2-31
TEL:0778-51-5411 FAX:0778-51-8242
メールアドレス: tannan-yotuba@jadecom.or.jp

